社会福祉法人　天水福祉事業会

ココカラ

令和3年6月1日
vol.11

令和２年度コロナ禍を振り返る
小さなはじまり、大きないっぽ。

令和２年度コロナ禍を振り返る

令和という新しい時代が始まり、AI技術の進歩や東京オリンピック、温暖化による異常気象への対応など、未来へとみんなが新しい取り組み、歩みをしようと思っていた矢先でした。まさか、こんなにも私たちの暮らしが一変するなんて、誰もが想像していなかったと思います。

本法人でも、毎月避難訓練の取り組みをしており、地震・火災・津波・不審者等の想定できる範囲の災害に対する備えをしてきました。もちろん、インフルエンザやノロウイルスといった感染症対策やそれに備える研修も行ってきましたが、令和2年に確認された新型コロナウイルス(COVID-19)による犠牲が世界中でこんなにも広がり、あらゆる人がマスク・消毒を常に行う「新しい生活様式」を身につけ、「三密を回避する」という動きが広まり、旅行や行事といった楽しみが次々に延期から中止へと。マスクや消毒用品など衛生用品の不足からの不安、買い物に出かけるときの感染リスクへの緊張感など、今まで何も考えずに行っていた一つ一つの行動がこれは良いのか、これは良くないのか、と判断を迫られるような状況でした。

新型コロナウイルスの感染拡大とともに、都市圏を中心としてテレワークやオンライン会議システムの導入など、人の働き方も大きく舵を取らざるを得なくなりました。それに対し、私たち社会福祉法人は「人と人」が直接関わっていくことが仕事となります。保育園は働き手の生活を支える重要な役割であり、障害者支援施設や特別養護老人ホームといった入所施設では、利用者様の生活全般を人の力で支えていかなければなりません。

本法人では16施設に約３００名の園児、利用者様が日々利用され、約１６０名の職員が働いています。このコロナ禍においては、どこかで陽性者が出ると、その関係者からつながっていく利用者様や保護者、職員の家族とその職場など、本当に多くの方が関わっていることがあぶり出されました。陽性者が出ると、いったん業務はストップとなり、陰性確認が取れるまでは身動きが取れません。なるべくリスクを避けるために、法人でも様々な対策を行いました。合同行事の中止、各施設での行事開催方法の見直し、面会制限、旅行の中止など。園児や利用者の皆様には大変申し訳なく、少しでも日々の生活を楽しんでもらおう、今できることを見つけて一歩ずつでも進んでいこう、と新たな取り組みを実行へと移していきました。

コロナ禍ではあっても、園児の皆さんや利用者様は、行事が中止になっても明るくて、新しい取り組みに柔軟に適応して楽しんでくださいました。ニュースを見れば感染者数の発表や外食・旅行ができない不満の声の報道などが散見されますが、子どもたちや利用者様にとっては情報として捉えるだけで落ち込んだりしません。いつだって目の前のことを楽しんでいて前向きです。障害福祉の父・糸賀一雄が「この子らを世の光に」という言葉を残していらっしゃいますが、このコロナ禍においても、まさにその言葉が当てはまるのではないかと思いました。本号では、本法人の昨年度の振り返りと、新たな取り組みを「小さなはじまり、大きないっぽ」としてご紹介させていただこうと思っています。

コロナ禍を振り返る

理事長あいさつ

理事長
國友　龍

再編と挑戦

平成20年に理事長を拝命し、現在に至るまで一期5年周期として、第一期「法人の拡大・膨張政策」、第二期「中身、質の向上」という運営目標を掲げ実践してきました。そして、コロナ禍における第三期を「再編と挑戦」とし、年々変化する社会情勢や少子高齢化社会への備え等を行い、種々の再編を行うとともに、新たな気持ちをもって挑戦していくことに主眼を置きたいと考えています。

改めて令和2年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の脅威が法人内でも高まり、その対策・対応に追われた一年であったように思います。この危機的状況の中からも光を見出し、法人として着実に前に進んでいくことが大切です。併せて、「つなぐ～復古創世・報恩感謝・国家福祉～」という法人理念の実現に向けて、役職員一丸となりこの難局を乗り切って参ります。

SDGsの実践

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、平成25年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が平成26（西暦2016）年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

本法人の特徴は、神道の理念実践と国家・福祉の推進及び貢献であり、そのための行動や啓蒙はもとより、職場を含む環境の充実を図るとともに、SDGs17項目の実践を図ることを重要視し、持続可能な社会の実現に向け、益々努力したいと考えています。

コロナ感染症対策の概要

令和２年度に法人全体で行った対策としては、①テレワークや業務のＩＣＴ化、オンライン化に対応するため、４～６月にかけて天水拠点のインターネット光回線の整備、新規光回線電話工事（電話番号や内線番号の整理）、新規ドメイン（@tensui.or.jp）の取得を行いました。②不足しがちな感染症対策衛生用品等については、国の優先調達制度の活用、緊急包括支援金等の助成や県・市からの支給支援、県社協等を通じた衛生用品の支給を受け何とか確保、維持を行いました。③コロナ禍の新しい生活様式に対応するため、国・県・市・各種団体の補助金や助成をいただき、非接触型検温器や移動式消毒噴霧器、タブレット端末、細やかな送迎が可能となる車両や落ち込む就労収益増のための支援等ハード面、ソフト面での対策を行いました。④法人感染症対策レベルに従い、ご利用者様の命を守ることを最優先に考えながら、各事業所が創意工夫を行い、保育・支援・介護を実施いたしました。ご家族の皆様のご理解、ご協力も大きな力となりました。

年間行事等について

４月	法人感染症対策レベル表（５段階）の作成
	お花見会　　中止
	慰霊祭　　神事のみ
５月	家族旅行（障害部門）　中止
６月	保護者会総会（障害部門）　中止
７月	法人警戒レベル４発令
	神社保育講習会・清正公祭り等イベント　中止
８月	天水つながる夏祭り　　中止
	夏期帰省（障害部門）　中止
９月	ふれあい運動会　児童部門のみで開催
１０月	若宮天子宮大祭　神事・式典のみ開催
１１月	法人警戒レベル４発令
	（第二天水学園ご利用者一名が陽性反応）
	マラソン大会　部門別に実施
１２月	仕事納め・各忘年会等　中止
	合同お遊戯会　児童部門のみで開催
	冬期帰省（障害部門）　中止
１月	呑んきや時短営業開始
２月	天皇誕生日・建国記念祝典　縮小開催
３月	コロナ対策簡易居室（円居・みすみ BASE）完成
	※県補助事業
	利用者旅行（障害部門）　中止

小天保育園

若宮天子宮大祭
（令和2年10月10日）

第55回目となる若宮天子宮大祭でしたが、コロナ禍・少子化の影響を受け、長く続いてきた内容も変更の多い大祭となりました。大きな変更点としては、①前夜祭の簡略化②御神幸（おみゆき）の中止③直会の中止でした。特に御神幸については、ご神体や御神輿、武士に扮した男性や母親部のチョーハイ踊りなどが天水町の町内を練り歩いて賑わいを見せていただけに、中止となったことは非常に残念でした。その代わりに、園庭内のみ御神輿が出され、子どもの火渡り神事を実施しました。火渡り神事については、KKT のテレビ取材も受け、子どもたちも立派にインタビューに答えていました。

小天保育園

運動会
（令和2年9月19日）

クラスごとに観覧席の入れ替えを実施し、入場時の保護者への検温、一定距離を保った観覧場所の設定を行い開催されました。普段であれば、保育・障害部門が合同で開催され大変盛り上がる運動会なのですが、コロナ禍ということで苦肉の対応となりました。それでも、炎天下の中頑張って練習した鼓笛隊などを見ると涙が出そうになります。コロナ禍でも確実に成長していく子どもの強さというものを実感しました。

でんでん

でんでんミニ祭り
（令和2年10月27日）

昨年の4月に開園したでんでんは、コロナ禍のスタートとなりました。4月5月は緊急事態宣言下でその対応に追われ、何の行事もできないまま夏が過ぎてしまったのですが、秋にミニ祭りを開催しました。園児さんと保護者1名様までという参加者制限の中でしたが、ヨーヨーや輪投げ、くじ引きなど出店で楽しんでいただきました。

睦合保育園

お遊戯会
（令和2年12月12日、19日）

お遊戯会は 0～3歳児クラスと 4～ 5 歳児クラスで開催日を分けて開催をしました。クラスごとに総入れ替えで、観客は出演する園児の保護者のみという体制をとらせていただきました。年長児は着物や袴を着て、男の子は『兄弟船』『一剣』女の子は『また君に恋してる』『炎』の演目を披露しました。

睦合保育園

ミニかるたとり大会
（令和3年1月26日）

以上児(3～5歳)の園児さんが『ことわざかるた』に取り組み、文字の音読練習と、ことわざの学習をしています。コロナ禍でステイホームということもあり、小学生のご兄弟と家庭で練習する園児さんもいて、意欲的に取り組んでいただきました。「いしのうえにもさんねん」「えんのしたのちからもち」といったことわざです。大人も勉強になりますね！

コロナ禍を振り返る

高齢部門

たがの里　喫茶コーナー
（令和2年6月12日）

年２回開催されているバイキング形式の喫茶コーナーです。和菓子や洋菓子など、利用者様がお好みのデザートを選択できるようになっています。場所も、写真は玄関ロビーで開催のものですが、見晴らしの良い３階のテラスで行うこともあり、コロナ禍でも楽しめるようイベントを企画しています。

きらめき　お正月
（令和3年1月1日）

ご家族の面会制限がある中、少しでもお正月の気分を味わっていただこうとおせちを用意させていただきました。お屠蘇を召し上がっていただいた利用者様もいらっしゃいます。お品書きも添えて、普段とは違う器で楽しんでいただきました。［赤飯 / 餅麩のお雑煮 / 海老の煮物 / 伊達巻 / ひとくち昆布巻き / 数の子 / 紅白なます / 練り切り / 栗きんとん］

障がい部門

天水生命学園　ミニ運動会
（令和2年9月15日）

例年は保育園との合同開催でしたが、天水生命学園のみで開催をしました。普段から活動している班ごとに『釣りバカ日誌ゲーム』『大玉転がし』『ペタンク』の競技を行い、最後はみんなのお楽しみ『パン食い競争』を。例年に比べコンパクトな行事でしたが、利用者様も体を動かし、大いに盛り上がっていただきました。

天水生命学園　オンライン面会実施

ご家族の面会制限が続いている中、ZOOM を利用したオンライン面会を実施しました。初めての試みで戸惑うこともありましたが、ご自分の思いをうまく言葉にすることができない障害をお持ちの利用者様にとっては音声のみの電話ではなく、映像で視覚的な情報が入るオンライン面会はコミュニケーションがとりやすいようで、新たな可能性を見つけることができました。

第二天水学園　販売会の実施
（月2回）

第二天水学園の就労支援と、外出ができず買い物の機会が無い利用者様への余暇活動の一環としてお菓子やコーヒーの販売会を月に２回実施しています。第二天水学園の利用者様も、テント設営、商品の陳列、手の消毒、呼び込み、お会計の数量確認、袋詰めなど、それぞれの役割を責任もって担当されています。これからの発展が楽しみです。

くるり　くす玉制作
（令和3年3月）

支援学校入学や卒業、保育園入園などの節目をお祝いし、利用者様と一緒にくす玉制作を行いました。くす玉が割れると、一緒に制作をした「おめでとう」の垂れ幕や紙飾り、紙吹雪がはらはらと舞い落ちてくる仕掛けです。思い出やこれからの期待をお話しながら作ったくす玉は、とてもきれいでした。

大きないっぽ。

円居　まどゐ　OPEN　　グループホーム 365 日

円居には、人々が輪になって団らんするという意味があり、「利用者様はもちろん、地域の方を含めた関係する人々がここに集まり輪になって団らんできる、そんな居心地の良い場所であるように」との願いが込められています。

住所　玉名市天水町小天6679番地3、木造平屋建（屋根・外壁：アスファルトシングル）、床面積　36.48㎡　（11.04坪）、設計　㈱村田建築設計所　村田明彦、建築　㈲畑岡住建、令和2年12月15日　地鎮祭、令和3年1月30日　上棟祭、令和3年3月16日　新築落成、用途・目的　感染発生時対応・衛生用品保管等に柔軟に使える多機能型簡易居室

みすみ　BASE　OPEN　　ワークセンターみすみ

BASE には、‘基礎’ や ‘土台’ という意味があり、「ワークセンターみすみが三角・天草地域の拠点として再スタートできる起点・出発点となるように」との願いが込められています。

住所　宇城市三角町波多六反田3118番地15、木造平屋建（屋根：ガルバリウム鋼板　外壁：サイディング）、床面積　38.92㎡　（11.79坪）、設計　㈲渡辺建設　渡邊浩敏、建築　㈲渡辺建設、令和2年12月15日　地鎮祭、令和3年1月30日　上棟祭、令和3年3月16日　新築落成、用途・目的　感染発生時対応・衛生用品保管等に柔軟に使える多機能型簡易居室

小さなはじまり、

柑橘ジュース　パッケージ新たに

第二天水学園

約1年前の春でした。天水生命学園の利用者・前田さんが「私は、ちぎり絵をがんばります」と宣言し、それから黙々とちぎり絵を作るところから始まりました。それまで部屋に閉じこもり、なかなか人と交わることができなかったのですが、ちぎり絵を通していろんな人とのお話が弾みます。前田さんの作り上げたちぎり絵は、地中海のタイルアートのようで、見た人の心を明るくしてくれます。

一方、第二天水学園では利用者さんが栽培した柑橘をジュースにして販売をしています。夏場の暑い中の摘果や除草作業、冬空の下での収穫・選別・出荷までの作業を利用者さんが担っています。葉みかんなどの希少な品種をジュースにできるのは、本当に利用者さんが作業をしてくださるからこそです。

天水生命学園と第二天水学園の利用者さんが携わったジュースが、今回パッケージを新たにしてオンラインで発売となりました。送った人、受け取った人が心明るく、元気になる贈り物になればと思います。

1	2
3	4

1　明るい配色のちぎり絵を包み紙に使用したジュースのパッケージ。葉みかん・ポメロ・ミックスジュースそれぞれで包みが異なりますので、お好みのデザイン・味を楽しんでください。

2　天水生命学園の利用者・前田さんがちぎり絵の制作に取り組まれているところ。様々な色のパーツを箱一杯にし、その中から次に貼るパーツを選ぶ作業を繰り返します。配色の設計図は、前田さんの頭の中にあります。

3　第二天水学園の包装を行うメンバーです。ひとつひとつの作業を丁寧に行うのが得意な方、シールを真っすぐに貼るのが得意な方、それぞれにできること・得意なことを就労の中で行っていただきます。

4　オンラインショップがオープンしました。全国発送ができます。お支払い方法も選択できますので、ご自宅や贈答用にご利用ください。天水福祉事業会のWEBサイトよりご覧ください。

ココカラ vol.11
令和3年6月1日発行　社会福祉法人 天水福祉事業会　熊本県玉名市天水町小天6638　TEL 0968-82-2618

TOPICS

交通安全運動がテレビ取材されました

令和2年9月28日、小天保育園の園児が参加した交通安全運動をKKTに取材いただきました。熊本県玉名警察署からの交通安全キャンペーンの依頼で実施しました。交通安全の旗や看板を持って天水町呑﨑の交差点に立ちPRしました。最後は熊本県警キャラクターのゆっぴー・玉名市のタマにゃんと一緒に記念撮影もしましたよ。園児の皆さん、お疲れ様でした！

熊本銀行様より車椅子を寄贈いただきました

令和2年7月末、熊本銀行様が実施されている「小さな親切」運動として天水生命学園へ車椅子を寄贈いただきました。この「小さな親切」運動の熊本県本部事務局が発足した平成2年より約30年も熊本銀行様が担っているとのことです。天水生命学園でも利用者様の高齢化が進んでおり、介護ニーズが年々高まっておりますので、大切に使わせていただきます。熊本銀行様、ありがとうございました。

熊本豪雨・災害復旧活動ボランティアへ

令和2年7月3日から4日にかけて降り続いた豪雨により、人吉・球磨では甚大な被災を受けました。7月13日、熊本県神社保育連盟のメンバーとして、本法人からは児童部門・障害部門の3施設から職員5名が参加し、被災地でボランティア活動を行いました。主な作業としては、人吉市・青井幼稚園の学童クラブの浸水した床の解体でした。心ばかりではありますが、連盟から救援物資とお見舞金を持参させていただきました。改めまして、被災された皆様には心よりお悔やみ申し上げます。早くも1年が経とうとしておりますが、1日でも早い復興をお祈り申し上げます。

社会福祉法人 天水福祉事業会
熊本県玉名市天水町小天6638
TEL 0968-82-2618　FAX 0968-82-3688
WEBサイト　https://tensui.or.jp/